

《ASEAN》第40回アセアナポール年次会議開催 加盟10カ国の警察長官：プロフィール

東南アジア諸国連合(ASEAN)加盟10カ国の警察機関の間での捜査協力、情報交換、相互交流の促進を目的とする「アセアナポール」の第40回年次会議が3月1-5日、2022年のASEAN議長国であるカンボジアの首都プノンペンで開かれた。会議では、新型コロナウイルス禍の下で増加傾向を辿る、麻薬密売、人身売買、特殊詐欺などの越境犯罪に対する捜査・摘発や防止策を中心に、一層の相互連携に向けた具体的で技術的な協議が行われた。

「アセアナポール(ASEANAPOL)」は、「ASEAN警察長官会議」とも呼ばれるように、1981年に創設された当初は、長官率いる各国の警察高官団が、域内連携が必要とされる懸案事項について協議する年次フォーラム的な仕組みだった。

2000年代に入って、国際テロ組織「アルカイダ」と連携して東南アジア諸国に跨るネットワークを構築した、広域テロ組織「ジェマー・イスラミア(JM)」がインドネシアのバリ島や首都ジャカルタで大規模な爆弾テロ事件を続発させる状況が2009年ごろまで続くと、「アセアナポール」には各国警察の対テロ捜査当局の間でのより緊密な情報交換や具体的な捜査協力の機能が要求されるようになった。

こうした経緯から、2010年1月には「アセアナポール」加盟機関の連絡・調整を行う常設事務局がマレーシアの首都クアラルンプールに設置された。

「アセアナポール」の沿革

「アセアナポール」には、国際犯罪の防止を目的として世界各国の警察機関により組織された国際組織「インターポール(Interpol: 国際刑事警察機構)」のような「国際逮捕手配書(赤手配書)」などの発行権限を持つ国際的な法執行機関の機能はないだけに、ASEAN加盟各国の警察機関の間での捜査協力を進める上では、主に域内のテロ・治安・犯罪情報の収集・分析と共有が重要な業務になる。

具体的なプロジェクトとしては、加盟国政府のテロ対策と法執行活動を支援する目的で、各国警察が迅速かつ安全にアクセスし利用できる、「e-ADS2.0」と名付けられた統合データベース構築がある。当初は、過激派分子・テロリストなどに関するインテリジェンス(諜報情報)や指紋・DNA情報などのバイオメトリック情報をASEAN加盟国間で集積・統合するものだったが、近年では、テロ対策に加えて、麻薬密売、人身売買などの越境犯罪に関係する国際犯罪組織とそのメンバーや活動動向に関する情報の交換・共用も重要になっている。

第40回年次会議の概要

3月1-5日にプノンペンで対面形式により開かれた第40回「アセアナポール」年次会議は、カンボジア国家警察のネート・サヴン長官が議長を務め、「域内の平和と持続的な安定確保に向けた協調の強化」というテーマの下に協議が行われた。

「アセアナポール」事務局の公式ウェブサイトに掲載された同会議を総括する3月15日付け報告によると、各国の代表団は、麻薬密売、武器・銃器密売、サイバー犯罪、テロリズム、野生生物売買など越境犯罪の取締り・防止に向けた連携に向けて分野ごとに意見・情報を交換し、対策を話し合った。

同会合には、「アセアナポール」に加盟する10カ国の警察トップが率いる代表団の他に、対話パートナー(機関)である、日本、中国、韓国、オーストラリア、ニュージーランド、英国、ロシア、トルコの国家警察機関、および「インターポール」の代表団が参加した。

また、王立カナダ騎馬警察(連邦警察)、フランス国家警察、米連邦捜査局(FBI)、国際警察長官協会(IACP)の代表もオブザーバーとして参加している。

参加した代表団の中には、ASEANが正統な政府として未だ承認していないミャンマー軍事政権の警察代表団と、ウクライナ侵攻を続けるロシ

アの警察代表団が参加したことが注視される。

同会議は3月5日に今回のテーマに沿った共同声明の署名式が行われた後に閉幕したが、会議の性格上からも当然のことながら、各分野の個別の技術的な協議の詳細は公表されていない。

ただ、今回は、新型コロナウイルス禍の下にあるASEAN各国で拡大する、麻薬密輸・密売、(不法移民問題を含む)人身売買、(主に自国民をターゲットに国外でコールセンターなどの拠点を運営する)特殊詐欺組織、各種のオンライン詐欺・賭博などのサイバー犯罪などについて対策が協議されたことは間違いない。

一方、同会議には、各国の警察トップと実務者らがカウンターパートのトップやフォーカスポイント(連絡・調整官)との対面での交流を深め、相互の連携関係を確認することにも重要な意義があったといえる。

〔「アセアナポール」加盟10カ国の警察長官〕

《カンボジア：第40回「アセアナポール」年次会議議長国》

■カンボジア国家警察長官 Commissioner-General of National Police of Cambodia
ネート・サヴン警察大将 Pol. Gen. Neth Savoeun



3月1-5日に開かれた第40回「アセアナポール」年次会議で議長を務めた。2008年11月から現職(国家警察長官)を務めており、同会議に参加した加盟国の警察長官では最古参となる。

*カンボジア人民党(CPP)の中央委員でもあり、「国家警察」というよりは、党が恣意的に運用できる治安機関の長というのが実態。2017年9月には、当時の野党第一党「救国党(CNRP)」のケム・ソカ(Kem Sokha)党首(当時の「国家反逆罪」での逮捕を主導した。ただ、街頭犯罪などの取締り・防止を陣頭指揮して一定の成果を上げているとの評もある。

*現在の地位や階級にあるのは、フン・セン首相の姪であるフン・キムレン氏と結婚したことが大きく、首相による縁故主義人事のお陰だとの見方がもっぱらだ。

▼データ：【年齢】66歳(1956年生まれ)【政党】カンボジア人民党(CPP)：中央委員【経歴】1989年(プノンペン政府)プノンペン警察本部長。1993年から内務省刑事局法務部長、国家警察副長官を経て、2008年11月11日国家警察長官(一現職)【家族】フン・キムレン(Hun Kimleng)夫人(フン・セン首相の姪)。

《タイ》

■タイ国家警察庁(RTP)長官 Commissioner-General of the Royal Thai Police
スワット・ジェーンヨットスック警察大将 Pol Gen Suwat Jangyodsuk



2020年10月に国家警察庁副長官から昇格(7人の副長官の中では「序列5位」で、長官人事の「ダークホース」だった)。公安局王室警護管理部長を務めた経歴があり、王室との親密な関係が警察トップ就任の決め手となったとされる。定年退役は2022年9月。愛称「ピックパット」。

▼データ：【年齢】60歳(1961年12月20日生まれ)【生地】中部・チャチュンサオ県生まれ【学歴】国軍士官学校予科卒(20期生)、王立警察士官学校卒(36期)、チュラロンコン大学工学修士(コンピューター科学)、

(米バージニア州)米連邦捜査局(FBI)アカデミー研修、タイ警察行政開発研修所修了(高等警察行政官課程)、タイ国防大学修了【経歴】警察将校：国家警察庁公安局王室警護管理部長、首都圏警察局(MPB)第6管区長、本庁調査研究部長、第3管区警察局(東北部南)刑事部長、本庁警察戦略事務局次長、首都圏警察局(MPB)副局長、本庁公安局局長、第1管区警察局(中央部)局長、2018年10月国家警察庁長官補、19年10月同副長官を歴任。2020年10月1日国家警察庁長官(一現職)【兼任】上院議員。

《マレーシア》

■マレーシア国家警察(PDRM)長官 Inspector-General of the Royal Malaysia Police
Inspector-General of the Royal Malaysia Police
アクリル・サニ・アブドゥラ・サニ Acryl Sani Abdullah Sani



ムヒディン・ヤシン前政権時代の2021年5月に「ブキアマン(Bukit Aman)」の通称で知られる国家(連邦)警察副長官から現職(第13代長官)に昇格。36年間にわたって警察官僚一筋。

▼データ：【年齢】60歳(1961年10月3日生まれ)【生地】(旧・マラヤ連邦)スランゴール州プタリンジャヤ【学歴】マレーシア工科大学(UTM)卒(工学士：土木工学)、ウタラ・マレーシア大学理学修士(経営学)【経歴】1986年国家警察に入庁：国内治安局、経済犯罪捜査局、戦略資源・技術局の各局長を歴任後にサラワク州警察本部長。2020年8月国家警察庁副長官。21年5月4日国家警察長官(一現職)。

《シンガポール》

■シンガポール警察(SPF)長官 Commissioner of the Singapore Police Force
ホン・ウィーテック(雲維徳) Hoong Wee Teck



2015年1月に内務省が所管するシンガポール警察(SPF)の副長官から現職(長官)に昇格。警察官僚35年の経歴を持つ。

▼データ：【年齢】59歳(1963年生まれ)【学歴】1987年シンガポール国立大学(NUS)卒、98年(英)リバプール大学行政修士【経歴】1987年シンガポール警察(SPF)入庁：SPF各部署の課長などを歴任後にベドック警察管区本部長。SPF情報部長、同刑事部長、同副長官(刑事部長兼任)を歴任。15年1月5日SPF長官(一現職)。

《ブルネイ》

■王立ブルネイ警察(PDB)長官 Commissioner of the Royal Brunei Police Force
モハマト・イルワン・ハンバリ Mohammad Irwan bin Hambali
2019年6月23日に現職(警察長官)就任。

《インドネシア》

■インドネシア国家警察(POLRI)長官 Chief of the Indonesian National Police
リストティヨ・シギット・プラボウォ警察大将 Pol. Gen. Listyo Sigit Prabowo



2021年1月27日付けで警察官・警察職員59万人を指揮する現職(第25代国家警察長官：インドネシア語の略称はKapolri)に就任。国家警察刑事局長からの昇格。就任時の年齢は51歳8カ月で、インドネシア警察史上で最年少の長官となった。

*2011年に中ジャワ州ソロ市警の本部長を務め、当時ソロ市長だったジョコ・ウィドド(通称ジョコウィ)現大統領と親交を深めた。また、14年から2年間、第1期ジョコウィ政権で大統領補佐官を務めている。大統領の同(リストティヨ)氏に対する個人的な信頼の厚さが長官任命に繋がったとの見方が多い。

*カトリック教徒であり、警察長官にキリスト教徒が就任するのは同国史上で2人目。異宗教・民族の融和を謳う「パンチャシラ主義」政治を掲げるジョコウィ大統領の政治思想を反映した人事ともいえる。

▼データ：【年齢】52歳(1969年5月5日生まれ)【生地】マルク州アンボン【宗教】キリスト教(カトリック)【学歴】1991年警察士官学校卒、2006年警察指揮幕僚大学上級幹部学校(SESPIM)修了、17年国家防衛研修所(LEMHANNAS)修了【経歴】1991年国家警察入庁：(旧・西ジャワ州)タンゲラン市警察勤務を最初に、ジャカルタ首都圏警察などで要職を歴任。2009

年中ジャワ州パティ警察署長、10年同州スコハルジョ警察署長。11年同州ソロ(スラカルタ)市警察本部長。12年国家警察(本庁)刑事局(Bareskrim)捜査第2部長。13年南東スラウェシ州警察刑事部長。14年(ジョコウィ)大統領補佐官。16年バンテン州警察本部長。18年本庁警務・保安部長。19年本庁刑事局長。2021年1月27日国家警察長官(一現任)【家族】ジュリアティ(Juliati Sapta Dewi Magdalena)、通称ダイアナ夫人との間に2男1女。

《フィリピン》

■フィリピン国家警察(PNP)長官 Chief of the Philippine National Police
ディオナルド・カルロス警察大将 Pol. Gen. Dionardo Bernardo Carlos



▼データ：【年齢】55歳(1966年5月8日生まれ)【生地】カラバルソン地方ケソン州ルセナ市【学歴】(ルセナ市)ルソニアン大学財団(現・エンベルガ大学)卒。フィリピン大学(UP)ディリマン校中退。1988年フィリピン国軍士官学校(PMA)卒。アジア経営大学院とフィリピン・クリスチャン大学から経営学修士号を取得【経歴】1988年(PMA卒業後)フィリピン警察軍(PC)に入隊(少尉に任官)：

ルソン島南部で左翼ゲリラ「新人民軍(NPA)」掃討作戦に従事。92年国連カンボジア暫定統治機構(UNTAC)指揮下の平和維持活動(PKO)に従事。94年国家警察特殊部隊(SAF)将校を経て、国連東ティモール統合ミッション(UNMIT)で短期間勤務。2000年(新設)フィリピン麻薬取締庁(PDEA)の情報部次長に就任。のち国家警察違法薬物対策特別作戦部隊将校。06年(中部ビサヤ地方)ネグロス・オリエンタル州ドゥマゲテ市(州都)警察本部長。2008年から国家警察航空保安局長、ハイウェイ・パトロール局長などを歴任後、国家警察報道官。21年5月国家警察官房長、同11月12日国家警察長官(一現職)【趣味】バイク乗り、レスキューダイビング、スカイダイビング【家族】既婚。子供は1男1女。

《ベトナム》

■警察庁(OIPA)長官 Chief of the Office of Investigation Police Agency
ドー・バン・ホアイン中將 Lt. Gen. Do Van Hoanh

2020年1月に公安省主任監察官から現職(公安省警察庁長官)に異動。

▼データ：【年齢】58歳(1963年6月1日生まれ)【生地】(红河デルタ)ヴィンフック省ラップタック県【政党】ベトナム共産党(CPV)：中央委員【学歴】警察学修士、同博士【経歴】公安省各部署の要職を歴任後、ヴィンフック省公安局副局長を経て、2014年(東北部)フート省公安局長。18年10月公安省主任監察官。20年1月1日公安省警察庁(OIPA)長官(一現職)。

《ラオス》

■警察総局長 Director General of the General Police Department

カムキン・ブーイラマニヴォン少將 Maj. Gen. Khamking Phouilamanivong
公安省傘下の各局局長では、ヴァントン・コンマニー(Maj. Gen. Vanthong Kongmany)政治総局長(副公安相を兼任)に次ぐポスト。(アサン・ラオリ)副首相秘書官などを歴任。

*ラオスは2023年の第41回「アセアナポール」年次会議の議長国に予定されている。

《ミャンマー》

■ミャンマー警察(MPF)長官 Chief of the Myanmar Police Force
タン・フライン中將 Lt-Gen Than Hlaing

2021年2月1日のクーデターで実権を掌握した軍事政権によって、同2日に副内相を兼任する警察長官に任命された。

*反軍政市民デモの参加者に対する無差別銃撃など警察による重大な人権侵害についての責任を問われ、米財務省や欧州連合(EU)理事会などによる制裁対象となっている。

▼データ：【年齢】57歳(1965年生まれ)【経歴】陸軍将校：陸軍東部(シャン州南部・カヤー州)軍管区司令官、同北西(ザガイン管区域)軍管区司令官などを歴任。2021年2月2日副内相兼警察長官(一現職)。

(アジア・リンケージ 勝田 悟)